

あなたが愛しておられる者が病気です

ヨハネ福音書11:1-6

【新改訳 2017】

- 11:1 さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。
- 11:2 このマリアは、主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐったマリアで、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。
- 11:3 姉妹たちは、イエスのところに使いを送って言った。「主よ、ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」
- 11:4 これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることになります。」
- 11:5 イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。
- 11:6 しかし、イエスはラザロが病んでいると聞いてからも、そのときいた場所に二日とどまられた。

【祈りながら考えよう】

- ベタニアのマリアは、どんなことをしたことで有名でしたか。
- 「あなたが愛しておられる者が病気です」との伝言は、悩みのうちにあるキリスト者の模範となるのはどんな点ですか。
- 神が人に病気などの「災い」を許容される目的は何ですか。

【解 説】

（1）ラザロが病気になった

さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。（1節）

この11章には、主イエスの公生涯における、最後の偉大な奇蹟が出てくる。ある意味において、死人をよみがえらせる、というこの奇蹟は、あらゆる奇蹟の中で最もすばらしいものである。

主イエスが人間であり同時に神であることを、これほどはっきり見せる場面は他にない。主は同情心に富む人間であり、しかも大能の神である。

ラザロは、エルサレムからおおよそ3キロ東方のベタニアという小さな村で暮らしていた。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの家があったことでも知られていた。ラザロはイエスがヨルダン川東岸のペレヤにおられた折に病気になった。

（2）主に香油を塗ったマリア

このマリアは、主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐったマリアで、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。（2節）

新約聖書においては、少なくとも6人のマリアがいる。

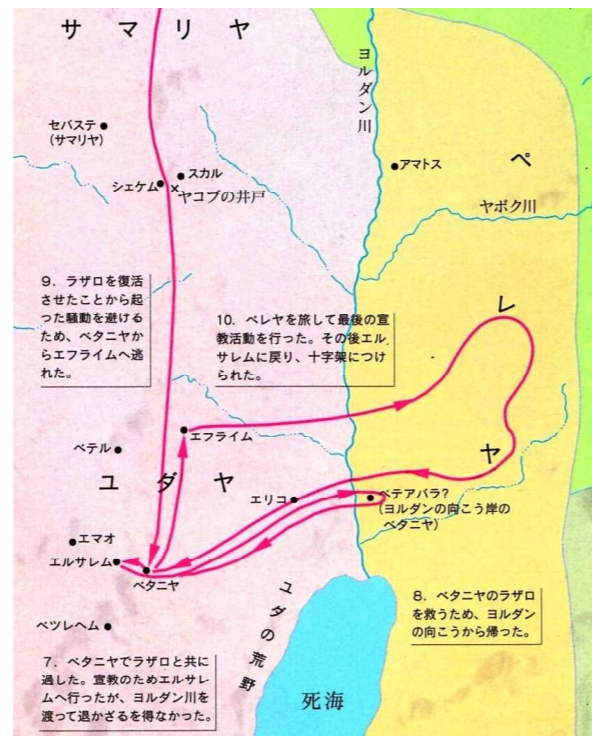
- ①イエスの母マリア、
- ②マグダラのマリア（ルカ8:1-3）、
- ③ヤコブとヨセフの母マリア（マタイ27:56／クロパの妻マリア（ヨハネ19:25）／イエスの母マリアの義理の姉妹）、
- ④マルコと呼ばれているヨハネの母マリア（使徒12:12）、
- ⑤パウロの友のマリア（ロマ16:6）、
- ⑥ベタニアのマリア、である。

そこで、誤解を生じさせないためにヨハネは、「このマリアは、主に香油を塗り……マリアであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである」と注釈を加える。

（3）イエスのところに送った伝言

姉妹たちは、イエスのところに使いを送って言った。「主よ、ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」（3節）

ラザロが病気になった時、主イエスはヨルダン川の東側におられた。姉妹たちはイエスのところに、主が愛してお



れるラザロが病気であるという伝言をすぐに送った。

この姿は、悩みのうちにあるすべてのキリスト者が見習うべき模範である。マリアやマルタのように、まず第1にキリストに申し上げるべきである。祈りによって私たちは、彼らと同じことができる。ヨブが試練の中でしたのも、このことだった。何をさておいても彼はまず「礼拝し」、「主の御名はほむべきかな」と語った（ヨブ1:20-21）。

ここでの伝言は、次節の「これを聞いて」という表現からして、書状ではなく、口頭のものであったと思われる。

「主よ。……あなたが愛しておられる者が病気です」これは短いけれども感動的で美しい伝言である。「あなたが愛しておられる者が病気です」という一言に込められた素朴で、尊い信頼の思いに目を留めよう。「これこれをしてください」「彼をいやしてください」とか、「早く来てください」などとは言っていない。ただ飾り気なく主イエスの前に事実を告げ、主が最善と考えられる事柄を行われるのを期待している。

ラザロを指す言い回しは注目に値する。「私たちの兄弟」「あなたの弟子のひとり」、あるいは「あなたを愛する者」とでなく、「あなたが愛しておられる者」と語られている。「あなたがこれまでずっと最愛の友のひとりとして付き合い、喜んで恵みと親切とを尽くしてこられた人物」との意である。絶えず心に留めねばならない尊い真理は、キリストに対する私たちの愛でなく、私たちに對するキリストの愛である。 私たちの愛は浮き沈みし、不確かであるが、主の愛は常に変わりがない。

（4）この病気は神の栄光のためのもの

これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。

それによって神の子が栄光を受けることになります。」（4節）

イエスが「この病気は死で終わるだけのものではなく…」と言われたのは、ラザロは決して死なない、とイエスは語っておられない。むしろ次のような意味であろう。

「このたびのラザロの病気の結末は、死がこの病気の最終的な結末になることはない、彼を再びよみがえらせることによる御子の栄光です。」という意味であった。

ラザロは死ぬ。しかし、彼は死者の中からよみがえるのである。この病気の真の目的は「神の栄光」であり、「神の子がそれによって栄光を受けるため」であった。神はこの出来事が起こるのを許された。イエスが来て、ラザロを死者の中からよみがえらせ、本当のメシアとして再び示されるためであった。人々はこの驚くべき奇蹟のゆえに神をあがめたことだろう。

（5）愛する者に対する教訓

イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。（5節）

病気が家庭に入ってくる時、神が私たちに對して怒っておられると速断してはならない。ここでは、病気は主の怒りではなく、直接、主の愛にかかわっている。主はその愛する者を懲らしめられるのである。

もし主がこの3人の信者を本当に愛しておられるなら、何をしても彼らの家に急ぐのではないかと私たちは考えやすい。ところがイエスは、その知らせを聞かれた時も、そのおられた所になお2日とどまられた。

神が遅延されても、それは拒絶にはならない。もし祈りがすぐに答えられなかったとしたら、それは主が待つことを教えておられるためかもしれない。そして、もし忍耐強く待つなら、予想をはるかに超える素晴らしい方法で、主が祈りに答えて下さることを知るだろう。

マルタ、マリア、ラザロをどれほど愛しておられても、時が来る前にキリストが行動を始めなければならない理由とはならない。キリストがなされるすべては御父のみこころに対する従順から出たことであり、神の定められた時と整合するものであった。

（6）その知らせを聞いてからもなお2日とどまられた

しかし、イエスはラザロが病んでいると聞いてからも、そのときいた場所に二日とどまられた。（6節）

この6節と5節との間に、意図的で深い結びつきがある点を見逃してはならない。主イエスはベタニアの一家、三人すべてを愛しておられた。にもかかわらず、ラザロが病気だと聞いても、ラザロをいやしにベタニアへ急ごうともせず、さらに二日間、同じところに平然とどまられた。

この遅延は故意のもの、目的があつてのことであるのは疑いがない。それによって、神がその民を取り扱われる摂理的なやり方に光が投げられる。この遅れによって、マルタとマリアの精神的な苦痛と苦悩はひどくなり、ラザロは死の苦しみを味わい、死別の悲しみを生じた。さらに愛する主がおいでになるまでの4日間、このベタニアの家族が置かれていた悲嘆、不安、困惑を容易に察することができる。また、イエスはそれらすべてを解決できたはずなのに、そうされなかった。

もし主イエスが急いでベタニアに赴き、ラザロをいやし、あるいはヨハネ4章50節のように遠くから声を発し、いやしを行っていたとしたら、ラザロの復活という素晴らしい奇蹟はなされず、ベタニアでの出来事が語り継がれることはなかったに違いない。一言で言えば、キリストの教会全体の利益のために、数人の苦悩が許容されたのであった。

災いと苦難が許容される場合についての典型的な記録がここにある。神は被造物が苦しむのを喜んでおられるわけではない。ただ、災いが許容されなければ人類が学び得ない教訓があることを知っておいでになる。それゆえにこそ、苦難を許容なさるのである。ある人々の苦しみによって多くの人が益を受ける。